

talk! talk! talk! イラストレーター・平尾香さん



イラストレーター 平尾香さん

パウロコエーリョの世界的ベストセラー「アルケミスト」の愛蔵版のイラストを手掛け話題となったイラストレーターの平尾香さん。
女性らしい柔らかさと強さを合わせ持った作風が見る人の心を惹き付けている。
そんな平尾さんが趣味の写真を撮り始めたのは学生の頃。各地を旅しながら写真を撮り、旅から得たインスピレーションを絵に生かしているという。
今回は旅と写真と仕事をキーワードにたっぷりとお話をおうかがいした。

プロフィール

ひらお・かおり。1972年、兵庫県神戸市生まれ。嵯峨美術短期大学ビジュアルコミュニケーションデザイン科卒業。同校にて非常勤助手として勤めた後、現在は東京を拠点に、個展活動やイラストレーションの仕事で活躍中。
旅をするのが好きで、そこから受けた世界を表現したり、日常のあらゆることから受けたインスピレーションをもとに、やさしくも力強いタッチでイラストレーションを描き続けている。表現方法はコラージュからエッチングやシルクスクリーンを使ったもの、顔彩や水彩を使った淡いタッチのもの、オイルスティックを使った力強いラインへと発展。また、最近では、写真、エッセイ、平尾さん自身への取材も含め、あらゆる角度で表現の場を広げている。2001年には「AROUND THE WORLD IN 80 SLIDES」という、ハワイから地球をぐるっと一周して撮影した写真のスライド80枚を、ライトボックスに並べて展示するという写真展も開催している。
これまでに、CDジャケットやカレンダー、数多くのファッションブランドのメインビジュアル、パウロコエーリョ著「ペロニカは死ぬことにした」「愛蔵版アルケミスト」などの装丁・装画、オリジナルグッズの商品企画、その他「anan」「GINZA」「Domani」「MORE」「BRUTUS」など、多数の雑誌等へのイラストレーションを提供している。
2004年2月には平尾さんが装画を手がけたパウロコエーリョの話題の最新作「11分間」（角川書店）が発売された。

ひとり旅の必需品はカメラ「マニュアル機が旅のペースに合っているんです」



カメラを始めたのはいつ頃からですか？

大学の頃に写真の授業があって、その頃から写真を撮り始めるようになりました。そのときは友達に譲ってもらったカメラを使っていたんですね。そのカメラもニコンだったような.....確か、F-401だったと思います。
学校が京都だったので、京都の町をぶらぶら歩いて撮影していました。自分で現像もしましたし、よく撮っていたと思います。写真の授業、結構好きだったのかも知れない。
現在の愛用機はFM2ですね。

そうですね。このカメラを買ったのは4~5年前なんです。旅に行くときに買ったんです。前のよりも軽くて、そんなに難しくなくて私でもシンプルに撮れるのがいいなって思っ

マニュアル機を選んだのはなぜですか？

.....マニュアル機以外を買おうとは全然思わなかったですね。なんでだろう？

(笑) 旅に持っていくために選んだんですね？

そうですね。旅へはひとりで行くことが多いんですが、そうすると時間がたっぷりあるんですよ。このカメラだと、物にじっくり寄り添って見てみたくなるんですね。だから、暇つぶしにびったりな遊び道具だなって思っ

合っているんでしょうね。

旅にはよく行くのですか？

そんなに頻繁に行っているわけではないんですけど、旅は好きですね。アイルランド、メキシコとか、あと、アフリカのチュニジアやマリ共和国にも行きました。僻地が好きなんです。できるだけ日常と離れたいというのと、あとで誰かに話をしたり写真を見せたときに、行ったことのない人が多いので面白いし興味を持ってくれます。

初めて行った国はどこですか？

学生のときに、初めてカメラを持って行ったのがインドでした。最初は、撮りたい気持ちがあっても、怖くてほとんど撮れませんでした。帰国してからそれを参考にして絵を描こうと思ったときに、ほとんど使える写真がなくて愕然としましたんです。

怖かったというのは？

ひとりでしたし、異国から来た私をじっと見つめる視線が怖かったのかもしれません。けっこう臆病なんです。

インドは言葉もなじみがありませんし、余計に恐怖感があるかもしれませんね。次の旅行からは撮れるようになったんですか？

はい。また懲りずにあまり英語も通じないようなところに行っただけですが、逆にそれがよかったのかもしれません。いわゆる観光地ではない国でしたし、もうこの国に来ることはない、今しかないんだって思っ



アルケミストの挿し絵を描く前に、空気感をつかむために訪れたというチュニジアで撮影。

旅をしたときの心地よさが 絵を描くインスピレーションになる

旅先では主にどんなものを撮影するのですか？

あまり"何を撮りたい"というのではなく、なんでも目に入ったものを撮ります。でも、同じ物を何回も撮ってことはあまりしない気がします。気に入ったら何かカットか撮ることもありますけど、それよりは色々見て撮りたいって思うんです。カメラを持って

いると敏感になるので、たとえ普通の景色でも、カメラを持つとなぜか全て残したくなるんです。カメラに収めようって思うと、全然違う視点になれるっていうのは面白いですよ。

旅で写真を撮ることで、作品に生かそうという思いがあるのでしょうか？

撮っているときは作品のためにという意識はないです。それよりも"今しかない"という思いが強いですね。いつも、ここには二度と来れないだろうなって思うんです。だから見た物を目に焼きつけるだけじゃなくて、形に残して持って帰りたいと思うタイプなんだと思います。

でも、絵を描くときに撮った写真を見直すことで、良い感じのテンションになりますよ。

写真を見て絵を描くということですか？

うーん、実際に写真を見て、それを資料にして描くというのは得意じゃないんですよ。それよりも、旅をしたときの感じ、日常から離れた場所にいた心地よさ、気持ちよさを思い出して、描きかけにしているんです。写真を見ていると、自分が歩いた場所をもう一度巡っているような感覚になれるんですよ。そうすると、そのときの感情が出てきて、すごく描きやすくなります。

それが良い感じのテンションになっている状態なんですね。

そうですね。自分がそこにボンって移動したような感じですね。でも、それはそんなに気張った感じではなくて、ぼんやりした状態なので.....

「写真から得たインスピレーションをひと筆ひと筆に込めて！」という感じではなくて。

いや、そういう熱い感じではないですね。実はあまり考えずに描いているのかもしれない(笑)。

以前、オイルスティックっていう、油絵の具をクレヨンみたいに固めたものなんです。それをニューヨークでたまたま見つけて買って帰ったことがあったんです。試しに使ってみようかと思って思ったときに、家の襖が日焼けしているのがふと目に入って、その場の雰囲気や襖に「えい！」って描いちゃったんです。あとできれいに剥がして展覧会で飾ったらけっこう評判が良くって、CDジャケットにも使われてしまって(笑)。

「えい！」って描いちゃったものなのに。

それが代表作ようになってしまって、こんなことでいいのかって思いましたね。でも変に狙ったり気負ったりしない勢いというのも凄く重要なんだと思います。

そういう意味で、写真も慣れない方が面白いかもしれない。ちょっと慣れると、構図をきれいにまとめることなどを考えてしまって、出来過ぎていて逆に面白くないとか。普段から積極的に写真を撮るよりも、しばらく時間を空けて、旅に行くときに撮るっていうのが、私に合っているのかもしれないですね。



独特の風貌をした男たちが、暑そうに座り込んでいる。



砂漠ではらくだにも乗ったそう。正面から愛嬌のある顔をアップでパチリ。



車で砂漠を走行中、突然ドライバーが車を止めて走って行き、このトカゲを見つけて帰ってきたとか。「砂漠の中からどうやって見つけてくるのか.....びっくりしました」

イラストと写真をセットにして保存 旅した気持ちを呼び出すきっかけに

旅から帰ったあとには、必ず写真をまとめるそうですね。

ええ、その作業も結構好きなんです。これはチュニジアをまとめたものなんですけど、こうやって旅の絵日記のようなイラストも一緒にしてあるんです。

へえ！これは面白いですね。

帰りの飛行機で描いたりしたものなんですけど、写真とは違う形で、自分の頭の中に残っている風景であったり、面白いなって思った言葉を残している感じでしょうか。こうやってきれいにまとめたのは、アフリカに行ったあとに開いた展覧会がきっかけだったんです。絵を見ればアフリカの雰囲気は伝わるんですけど、じゃあ実際そこはどんなところだったの？っていう説明はできないなっていうのがあって、それで、写真とイラストを一緒に置いておいたんです。

イラストで説明して写真で実物を見て。なるほど、色々口で説明されるよりもスマートに、楽しく伝わってきますね。

紀行文のように、何日にこういうことがあってどういう人と会いました、というような目線では描きたくないんです。これは私を介した絵なんですけど、自己中心的にならないように、見た人が行きたくする雰囲気を残したものをいつも描くようにしています。

人に見せることが前提にあるんですね。



旅で撮った写真はアルバムにまとめ、さらに頭に残った記憶を辿って旅のイラストを書いている。

そうですね、人に写真を見せるのは結構好きなんです(笑)。でも今回、改めて並べて見てみると、自分にとってもこういう形にまとめておいてよかったなって思いました。ずいぶん時間が経っているのに、見直すときよく思い出せる。何年経ってもその時の気持ちを呼び出せることができるんですね。

それから、旅ごとに段々と自分も変化していつてくるんだなってことに気づいたり。その時の心情が写真に現れてしまっているかな。だんだん写真が変わっていつてますね。

たとえばどんなことですか？

始めの頃は結構人を撮ったり物に寄って撮っているんですが、一番最近行ったオーストラリアではほとんど風景が多いですね。情景的な写真というよりも、ちょっと一歩引いた、入り込んでない感じですね。少し日常に近い場所だったからかもしれませんね。そのときは気づかなくても、こうやってまとめておけばあとで気づいたり、人に言われて気づかされたり、色々発見がありますね。



そこに行って、撮ったという事実 それが作品のプラスになる

イラストレーターになろうと思ったのはいつ頃からですか？

幼稚園とか、もう本当に小さなときからです。物心ついたときから絵を描くのが好きで、その延長で自然となっちゃったんです。今でも、自分がイラストレーターになりぎれているのかわからないんですけど。

好きなことをずっと続けてこられたというのは素晴らしいですね。

私は覚えていないんですが、母が言うにはいつも鉛筆とメモ帳となぜか虫眼鏡を持ってお絵書きしている暗い子だったって（笑）。ちょっと変な子供ですよ。虫眼鏡でじっと見て描いて。見たものをリアルに描くことが出来なかったから必死に目に焼きつけようとしていたんですかね。あ、今はその虫眼鏡がカメラのレンズになっているのかも。ずっと同じことしてますね（笑）。

虫眼鏡もカメラも、絵を描く上で手助けをしてくれたんですね。

そう、手助けしてくれるかわいい道具なんです。

撮った写真を見てもそうですが、カメラっていうもの自体、作品のエッセンスになっているというか、なんらかの影響を与えてくれていると思います。さっきも言ったように、違う目線になれたり、あと知らない人に「撮らせて」って言ってコミュニケーションを取るという行為も、絵を描く上で何かしらプラスになっていると思います。そういう意味で、カメラはコミュニケーションツールなんだなって感じます。

表現するものであり、コミュニケーションを取るきっかけを作ってくれるもの。

そう考えると絵も一緒ですね。表現しつつ、コミュニケーションも取れるものだと思います。違うのは、絵は私を通して、ファンクション置いて出てくる表現なんですよ。写真も私の目線を通したものなんですが、写真は直接的であるのに対して、絵の方が遠いというか、作為が入っているというか、自分の中身を出している感じがあるんです。写真はその一段階前の部分なんですよ。

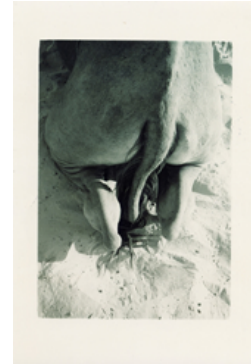
出来上がった写真は自分の作品だ、という感覚はないんですか？

.....それはないですね。写真の技術的なところも、「こういうのがいい写真だ」という見方もあまり解っていないところがあるので。「これいいね」って言われて、「そうなんだ」って思うぐらいです（笑）。

それよりも、この写真を写したとき自分がそこに居たっていう証拠みたいに残ればいいなと思います。写真を撮りに、その場に行ったっていうことがすごく重要なんです、きっと。



写真はカラー、モノクロ両方で撮影している。
モノクロ写真はカラー用の現像機でプリントしている。



カラー用の現像機でプリントすることで、セピア調色やブルー調色に似た色調になるのがお気に入りだそうです。
写真はらくだのおしり。

「心に余裕があって 心地よい空間を持てる人になりたい」

平尾さんが作品を通して表現していきたいものはありますか？

うーん.....旅する気持ちよさだったり、心地よさみたいなことを大事に、描いているときはそのテンションを常に保っていききたいなとは思いますが、表現したいことですか.....？

たとえば、見る人に対して訴えたいものや、感じてもらいたいことなどあれば。

そうですね、基本的には見る人それぞれ好きに思ってくればという感じなんですけど、見て嫌な気持ちにはなってほしくないなと思います。よく使われる「癒し系」とか、「フワっとしてる」とか、「イイ感じ」とか、そんな単純な言葉で言ってくれても全然OKです（笑）。

そういう言葉を意図して描こうとは思っていないですけど、日常生活の中のほんの一瞬かもしれないけど、絵を観るのはゆとりの時間だったりと思うので、そこで嫌な思いはしてもらいたくないですね。

旅についての目標はありますか？行ってみたい国だったり、50カ国目指したい！など。

目指せ50カ国！ですか（笑）。そうですね、そういうのもいいですけど、今はどちらかというと落ち着いてきた感じはありますね。昔はもっと上になってガツガツしていた感じがあったんですが、今はこのペースを保ってあげたいなと思います。

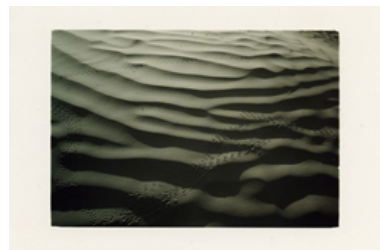
今がすごくいい状態なんですね。

うーん、まあ、理想を言えば色々ありますよ。

こういう絵を描いているからには、自分自身、もう少し心に余裕を持って、心地よいと感じる空間や時間をもっと持てる人になりたいですね。あとは作品を発表していくってことをもう少し積極的にできたらいいですね。それから、旅のイラストと写真を紀行エッセイのような形で本にまとめて、たくさんの人に旅の心地よさを伝えたいです。

また写真展なんていうのもいいかもしれませんね。

写真ですか？そうですね、以前にやった時とても楽しかったですし、基本的に、見せびらかすの嫌いじゃないですからね（笑）。やっていいんだったらほんと、やりたいですね。よろしくお願ひします（笑）。



砂漠独特の文様が、モノクロ調の色みによって立体感を増している。らくだの足跡だけが後ろに点々と続く。

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.